公共交通を考えるワークショップ

第１回
この地域のくらしの足をどうしたらよいか？
みんなで考える
ワークショップ

引田・代継・網代区域
《引田・渕上・代継》

日時：平成30年9月24日（月・祝）
午後２時～午後４時（予定）
場所：楓ヶ原会館

ワークショップの実施にあたって

１）ワークショップ開催の趣旨

2000年10月 （平成12年）	るのバス開業
2015年度 （平成27年度）	公共交通の利用に関する市民意識調査の実施
2016年度 （平成28年度）	「あきる野市公共交通のあり方検討会議」を設置 ⇒「あきる野市公共交通のあり方に関する提言書」
2017年度 （平成29年度）	「あきる野市公共交通のあり方検討報告書」 ⇒優先的に公共交通対策を検討する必要がある地区を、市が「公共交通優先検討区域」と設定

［深沢区域、引田・代継・網代区域、草花折立下区域、東秋川橋西側区域］

「引田・代継・網代区域」も該当

ワークショップを開催して、地区の交通の現状、課題、あり方などについて、地区のみなさまと一緒に考えていきます。

（参考）ところで、ワークショップとは何？

・もともとの意味は、「工房」や「作業場」。

・近年、参加者が討論・体験・作業などを行いながら、お互いの技能を伸ばす場、といったような意味で使われます。

・住民参加型のまちづくりでは、自由に意見を出し合ったり、お互いの理解を深めたり、参加者の合意を得たりするために有効な技法として活用されています。

このワークショップでも、さまざまな方が集まって、お互いの考えを尊重しながら自由に意見を出し合い、地区の交通について一緒に考えていきます。

ワークショップの実施にあたって

２）ワークショップを行う理由

①区域の皆様が日ごろ交通手段をどうされているかは区域の皆様にお伺いするのが一番です。

②様々な交通手段を考えるために、区域の皆様からご協力いただける部分があるのかどうかをお教えください。

③公共交通対策などを進めるに当たり、市民の皆様と行政とで共通の認識を持つことが必要です。

そのため、この取り組みへ積極的な参加・ご協力をお願いします。

ワークショップの実施にあたって

３）ワークショップの進め方

第１回（本日）
「ワークショップの目的と地域の現状を知ろう」

第２回（10月13日（土）午前10時～）
「地域の交通のあるべき姿を考えよう」

第３回（11月23日（金・祝）午後２時～）
「地域に必要な交通がどのようなものかを考えよう」

地区にお住まいの方（抽出）に
アンケート調査を実施予定

第４回（平成31年1月14日（月・祝）午後2時～）
「地域の交通手段を考えよう」

３）ワークショップの進め方（続き）

ワークショップの成果（予定）

ワークショップ（第１回～第４回）

↓

「新たな公共交通の導入は必要なのか」、
「必要な場合、どのような交通手段を入れるのがよいか」
ということについて、地区としての案をまとめます。

↓

今後の取り組みを進めるうえでの検討材料として活用。

- 市が設定した４つの「公共交通優先検討区域」（深沢区域、引田・代継・網代区域、草花折立下区域、東秋川橋西側区域）での案を踏まえ、この４つの区域の内、優先的に対策が必要な区域がどこかを考えます。
- 来年度以降、実証実験の実施について検討します。

本日のワークショップについて

１）本日のワークショップで行いたいこと

・ワークショップの実施にあたって
・本日のワークショップについて

⇒<u>ワークショップの目的などを共有</u>

・情報の共有

⇒<u>考える上で必要な、基本的な情報を共有</u>

・グループワーク

⇒<u>日頃の外出のこと、外出の時に困っていることを、みんなで意見を出して共有</u>

本日のワークショップについて

２）ワークショップでの“約束”

・たくさんの意見・アイデアが大事です。正解はありません。思い切って自分の思いをお話ください。

・考え方は人それぞれです。自由な意見交換ができる雰囲気づくりを心がけましょう。
（最初から意見を否定・非難しない。人の話をさえぎらないなど）

・みなさんがたくさんの意見を出せるよう、１人のお話が長くなり過ぎないよう心がけましょう。

ご協力お願いします！！

本日のワークショップについて

２）ワークショップでの“約束”

- 会議ではいろいろな意見が出ると思いますが、「最後はまとめる」ことを心がけましょう。

- せっかくの機会なので、楽しく、前向きな意見交換をしましょう。（文句ではなく、リラックスして話しましょう。）

ご協力お願いします！！

情報の共有

１）市人口の減少

- あきる野市の総人口は、2015年から減少すると予測されています。
- 今後、少子高齢化も進行し、2025年（平成37年）には総人口の約30％が65歳以上になる見通し。
- 今後、高齢の方などの暮らしの移動を支えることが、非常に重要となります。

■あきる野市の総人口、年齢区分別の人口の推計

	H7年	H12年	H17年	H22年	H27年	H32年	H37年	H42年	H47年	H52年
年少人口割合（0～14歳）	18.1%	16.2%	15.2%	14.1%	13.3%	12.4%	11.6			11.0%
生産年齢人口割合（15～64歳）	70.9%	71.0%	68.9%	62.2%	59.0%	58.1%	58.2			53.3%
高齢者人口割合（65歳以上）	10.7%	12.8%	15.8%	23.8%	27.7%	29.5%	30.2%	31.0%	32.9%	35.7%

65歳以上の割合は増加

出典：あきる野市まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成２８年３月）

情報の共有

２）引田・渕上・代継地区の住民数、世帯数の変化

・引田・渕上・代継地区の住民数は減少していましたが、近年は増加に転じています。世帯数は増えています。
・住民の年齢階層を見ると、高齢者の割合が増えています。

■住民数と世帯数の変化
（引田・渕上・代継地区）

■住民の年齢階層の変化
（引田・渕上・代継地区）

出典：あきる野市資料

情報の共有

３）交通手段の利用状況

あきる野市

- 外出する際には、自動車が多く利用されています。
- 鉄道やバスも、比較的多く利用されています。

増戸・引田地域

- 市全体に比べ、自動車は同じくらい利用。
- 鉄道とバスの利用の合計は、市全体と同じくらい。
- 自動車を運転することのできない高齢の方などの交通手段の確保が重要な課題といえます。

出典：あきる野市、増戸・引田地域：あきる野市地域交通利用に関する市民意識調査結果（平成２７年度実施）。三大都市圏、地方都市圏：平成２７年度全国都市交通特性調査結果（速報版）
なお、出典が異なるため単純な比較はできないことに留意。

情報の共有

４）バス交通に関する経費の状況

- あきる野市では、バス交通など（盆堀地域での交通対策含む）に関わる主な費用として、平成２８年度１年間に合計3,585万円を負担しています。
- るのバスの補助のほかに、路線バスの補助なども行っています。

■バス交通などに関する市の経費（平成２８年度）

項目	費用	備考
①循環バス運営費補助金	1,351 万円	るのバスの補助
②生活バス路線維持費補助金	1,471 万円	路線バスの補助
③スクールバス運行委託料	642 万円	
④盆堀地域交通対策事業経費	121 万円	
合計	3,585 万円	

出典：平成２８年度あきる野市各会計歳入歳出決算書

情報の共有

５）利用者減少とサービス低下の悪循環

- バスなどの公共交通は、利用者が少ないとサービスを維持することが困難になります。
- 公共交通を維持するためには、<u>利用者が公共交通を利用する必要</u>があります。

■利用者減少とサービス低下の悪循環のイメージ

出典：平成２９年度専門課程総合交通体系（地域モビリティ戦略）研修資料（国土交通省）を参考に作成

情報の共有

６）最寄りの駅やバス停までの距離

- 地区の中心から最寄りのバス停まで、直線距離で約570m。同様に、最寄りの駅まで約1km。

※地区の中心から鉄道駅、バス停までの距離を図上で計測

情報の共有

６）道路幅員の状況

- 地区内でワゴン車が通れる幅がある道路は、東西方向の出雲・熊野通りと間坂通りがあります。
- 地区を縦断する都道169号は、さらに幅員が広く、るのバスのサイズの車両も通行できます。

凡例

道路幅員状況

- 大型バス運行可能道路（運行中）
- 大型バス運行可能道路（運行なし）
- るのバス車両運行可能道路（運行中）
- るのバス車両運行可能道路（運行なし）
- ワゴン車両運行可能道路（運行なし）

バスルート

- 路線バス
- るのバス
- バス停留所
- 鉄道路線
- 鉄道駅
- 鉄道駅700m圏
- バス停300m圏
- 引田・代継・網代区域（引田・渕上・代継）
- 行政界

グループワーク

１）自己紹介＋「近頃よかったこと」

- お名前
- 「近頃よかったと思ったこと」の紹介

肩の力を抜いていただくのが目的です。
リラックスしてどうぞ。

もし本名を出すのはちょっと・・・という方は、本名でなくても構いません。

グループワーク

２）私と交通

別紙「私と交通」をご覧ください。

次回予定

第１回（本日）
「ワークショップの目的と地域の現状を知ろう」

第２回（10月13日（土）午前10時～）会場：千代里会館
「地域の交通のあるべき姿を考えよう」

内容（予定）　・・・変更になる可能性があります。

〇情報の共有

交通手段の事例のご紹介

〇グループワーク

・交通のあるべき姿について、意見を出し合います。
「あなたが住み続けたいと思うような地域になるためには、この地域にどのような交通があったらよいと思いますか？」